新自由主義とたたかう労働組合の全国ネットワークを！

全国労働者総決起集会

国鉄1047名解雇撤回！　外注化阻止・非正規職撤廃！
反原発・反失業をたたかう国際統一行動を！

写真＝2011年11・6全国労働者総決起集会（日比谷野音）

「新自由主義とたたかう労働組合の全国ネットワークを！」「国鉄1047名解雇撤回！外注化阻止・非正規職撤廃！」「反原発・反失業をたたかう国際統一行動を！」――11月4日（日）、東京・日比谷野外音楽堂で「11・4全国労働者総決起集会」が開催されます。

3・11大震災と原発事故以来1年半余り経過しました。しかし被災地の復興は置き去りにされ、原発事故が収束しないばかりか、野田政権は原発再稼働、増設に突き進んでいます。「社会保障と税の一体改革」とは消費増税と社会保障の解体です。大恐慌下で財界は、9割の非正規職化を狙い、大阪市長・橋下は公務員全員解雇を叫んでいます。この15年間に50万人もが自殺するという、資本主義・新自由主義による殺人ともいうべき事態が進行しています。

しかし、みなさん！　労働者階級には希望と展望があります。11・4集会を呼びかける3労組は階級的労働運動の再生に向けて闘い抜いています。

全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部は、一昨年の産業ゼネストに対する資本・権力の攻撃と対決し、1年で1千人もの組織拡大を実現しました。全国金属機械労働組合港合同は、故・大和田事務局長の遺志を継ぎ、企業の塀を越え、地域の中小零細の労働者を組織しています。国鉄千葉動力車労働組合（動労千葉）は、JRの検修・構内業務の外注化―強制出向に対し、5日間のストライキを闘い、外注化を撤廃させる新たな闘いに突入しました。

そして、国鉄1047名の解雇撤回闘争では、国鉄闘争全国運動をさらに大きく広げた陣形により、動労千葉・鉄建公団訴訟での〈解雇撤回・JR復帰〉の高裁判決を求める新たな署名運動が呼びかけられています。

今年の11・4集会を、闘う労働組合の〈組織拡大大会〉としようではありませんか！

今、釣魚台（尖閣諸島）、独島（竹島）の「領土」問題をめぐって、排外主義と改憲や集団的自衛権を求める極右が台頭しています。しかし、労働者階級にとっての「領土」などありません。労働者は国境を越え、一つの階級として団結できるのです。11・4集会には米韓独などの海外労組代表も参加します。

誰でも参加できる集会です。多くの参加をお願いします。

日比谷野外音楽堂
11月4日（日）

正午～全国労働者集会

・呼びかけ3労組と国鉄闘争全国運動を先頭に、国鉄1047名解雇撤回、外注化阻止・非正規職撤廃に向けたアピール
・フクシマの反原発の怒りの声
・農民、若者、学生のリレーアピール
・海外労組の代表、日本で闘う外国人労働者の発言……など

午後3時半～デモ行進

日比谷・銀座をデモ行進。途中、東京電力前での抗議行動

日比谷野外音楽堂への行き方

東京メトロ丸の内線・千代田線「霞ヶ関」徒歩3分、日比谷線「日比谷」徒歩3分、都営三田線「内幸町」徒歩1分、JR新橋駅徒歩15分

呼びかけ団体

◎全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部
◎全国金属機械労働組合港合同
◎国鉄千葉動力車労働組合
◎国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動（国鉄闘争全国運動）

〔連絡先〕千葉市中央区要町2－8DC会館内　TEL 043-222-7207
FAX 043-224-7197　doro-chiba@doro-chiba.org

米韓独など海外労組の代表も参加

外注化阻止・非正規職撤廃！

動労千葉 検修職場 外注化弾劾し5日間のスト

10・1～5 強制出向者を先頭に徹底抗戦

新自由主義と闘って勝てる道を示す

動労千葉（国鉄千葉動力車労働組合）は、JR東日本による列車の検査修繕・構内運転業務の外注化―強制出向強行に対して、10月1日～5日の5日間にわたるストライキを決行しました。幕張、京葉、津田沼、木更津、鴨川、銚子の各支部の検修・構内、派出に勤務する組合員全員が一糸乱れぬ団結のもとストライキを貫徹したのです。

ストの獲得目標は次の通り。①今後2～3年のうちに、外注化された検修・構内業務をJRに戻すために全力を挙げる、②計画業務、機動班、機能保全等の外注化を阻止する、③外注化の最大の弱点が偽装請負であることから、CTS（千葉鉄道サービス）における徹底した摘発・追及等の抵抗闘争を闘い抜く、④反撃の最大の武器である組織拡大闘争に、全組合員の総決起をかちとる、⑤CTSの労働者を組織する取り組みを全体で行う―。

強制出向者をはじめストライキに突入した組合員が並び、幕張支部、京葉支部などから次々決意表明（10月1日午後　千葉・DC会館）

職場に乗り込んでCTSを徹底追及

10月1日朝から、各拠点でCTSに強制出向させられる組合員への激励・送り出し行動が行われました。幕張車両センターでは、各支部の運転職場の組合員や動労千葉を支援する会が拍手や「頑張れ！」との激励の中、出向者させられる組合員とJRに残る組合員が一緒に堂々と職場に乗り込みました。

CTSに出勤した組合員に対して、午前中、説明会が開催されましたが、作業に必要な内規の説明も全く行われません。「どうやって仕事をやるんだ」「CTSの作業方法を教えてくれ」「制服や工具はどうするんだ」との質問が次々にたたきつけられました。しかし、CTSの担当者は「従前のとおり」を繰り返すだけ。組合員からは『従前』とはどういうことだ。JRのことを指しているのか」と怒りの追及が行われました。検修・構内業務の技術も経験もないCTSへの委託は、JRの指揮命令のもとでの、まさに偽装請負なのです。結局、組合員は何の業務にも就かないまま、正午を期して各拠点支部でストライキに突入し、午後3時からDC会館で、スト貫徹！動労千葉総決起集会を開催しました。会場には韓国・民主労総から贈られた激布が掲げられました。実に感動的です。

他支部の組合員らに送り出され職場に乗り込む幕張支部の組合員（10月1日朝　幕張車両センターに隣接する幕張本郷駅前）

青年部の怒り爆発し組織拡大へ固い決意

田中康宏委員長は「強制出向に駆り出された組合員はもとより、本体に残った仲間も『本当に悔しい。出向で出された組合員の目を見ることができない』と訴えていました。こうやって分断し組合をつぶし、労働者を転籍―非正規に突き落とす。絶対に許さない。今日は新しい闘いの第一歩です。外注化を許したら安全が崩壊し、第2の尼崎事故が起きる。問題は労働組合です。なんで労働組合が労働者を突き落とす政策に賛成するんだ！　僕らは自分たちの職場で絶対に止めてやる。これをとおして新自由主義と闘って勝てる道を示し、労働組合を復権させたい。僕らは負けていません。勝ちます」と訴えました。

幕張支部の山田護支部長からは「今日、職場に乗り込んで、外注化と強制出向は絶対に廃止できると確信した。闘いはこれからだが、青年部の若い仲間たちには、本当に申し訳ない」との決意と心温まる言葉がありました。これを受けて、青年部から「外注化との闘いは青年部の一番の課題だ。俺たちは動労千葉に入ったことを全く後悔していない」との感動的な発言が飛び出しました。

第1波ストは2日午後1時まで闘い抜かれました。正午から、京葉支部の組合員が職場復帰するに際して京葉車両センター門前で、激励行動が行われ、青年部の怒りが爆発しました。「みんな、これを許したら全部外注化です。会社はコスト削減しか考えてません。東労組の役員は、3年後に戻れるなんてウソは言わないでください。若い者をペテンにかけるんじゃねえ。東労組で闘えないと思ったら、いつでも動労千葉に来てください」

第1波24時間ストを終えて再び職場に乗り込む京葉支部組合員への激励行動（10月2日昼　京葉車両センター前）

各拠点で組合員が再び職場に続々と復帰。当局をを徹底追及するなかで、業務はガタガタになりました。

第2波ストは3日正午から行われ、千葉労働局への申し入れを行い、出向の要件を満たしていないことを認めさせました。

4日午後3時からDC会館でスト集約集会を行い、田中委員長が「これだけ闘える組合員は素晴らしい。分割・民営化から25年、外注化攻撃が始まって12年間の闘いがここまで鍛えた。これから新たな闘いに入ろう」と、中間総括を提起しました。

〈外注化阻止・非正規職撤廃〉のスローガンのもと、11・4日比谷野音に総結集しよう。

動労水戸

出向通知に怒り3波のスト

東労組の青年がスト破り拒否

動労水戸は、10・1外注化強行に反対し、ストライキを3波にわたって行いました。

8月28日の第1波ストに続いて、9月14日、強制出向発令通知に対する抗議の第2波ストに立ち上がりました。13日から15日にかけて次々ストに突入すると、当局による代務（スト破り）がJR東労組の青年労働者の怒りでことごとく粉砕される画期的事態が生みだされました。

14日早朝から勝田車両センター前抗議行動と水戸運輸区前抗議行動を闘い抜き、午後から水戸市内で総決起集会を開催しました。石井真一委員長は「支社は大混乱だ。今の時点で支社は出向を発令することができない」と感動的に報告しました。

勝田車両センター門前で第3波ストに突入集会。右奥は車両の検修のための倉庫（9月26日　茨城県ひたちなか市）

8月28日に加入したばかりの青年組合員は「自分が加入したのは、同じ職場で一緒にやっていた仲間が出向になるのはおかしいということです。東労組には我慢ができない」と語り、感動の拍手が鳴り止みませんでした。

第3波は9月26日。出向事前通知を受けた当該を先頭に、勝田車両センターで働く全組合員が始業時からストに突入しました。

こうして支社を力タガタに揺さぶり、組合を越えた反乱が起きるなかで10月1日を迎え、職場に乗り込みました。

動労連帯高崎は籠原で抗議行動

動労連帯高崎は9月25日、構内運転士として組合員が働く高崎車両センター籠原派出がある籠原駅前で、総決起行動を闘い抜きました。

ここに本物の労働運動が

鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）

新自由主義と闘う労働運動、本当にすごい。ここに本物の労働運動があると思います。金融独占資本が、その自由な価値増殖、利潤追求を実現するための思想、政策が新自由主義です。その独占体と国家の支配を打ち破り、変革する力は、職場生産点に基礎を置いた労働者・労働組合の組織的闘い以外にはないと思います。

国鉄 1047 名解雇撤回！

1年間で1千名の組織拡大を実現

全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部

高 英男 副委員長

この1年間、一にも二にも組織拡大をしようという取り組みをやってきました。生コン支部は、毎年200名近い拡大はしています。しかし職場が百数十ありますから、1人定年で辞めるとほぼ横ばいです。日々雇用労働者が増えて、組合員の高齢化が進んでいます。大阪では、一昨年の4カ月半にわたるゼネストに対する相手側の必死の巻き返しがありました。そういう状況のなかで、組織の行動力、集中力の後退になるわけです。

組合員が仕事を終わって酒を呑んで、パチンコに行って帰る。それをとりあえずこの1年間は封印をしてもらう。毎日ではありません。でも少なくとも月に2～4回ぐらいは組合のために全部に動いてもらおうと、私が拡大の責任者になってすべての地域を回って、組織の宣伝活動に取り組んでもらいました。組合員一人ひとりにノルマ的に何名の拡大を8月末までに必ずやってくれと。結果としてはこの8月に約1000名ほどの組合員の数が増えました。

もう一つは労働組合のあり方の議論がありました。この組織拡大を求めた時に、スローガンは、「街角に見える労働組合をめざそう」。職場の要求だけではなく、生活保護など生活の要求も担うということです。

約7年間、弾圧があり、業界からもいろいろやられ、それでも組織を信じて1300名が結集している。尋常じゃない組合員なんです。しっかりと組合員が大衆的に動いたらこれだけの結果は出せるんです。

僕は全部の組合員にわかりやすいように、「近所で安くておいしい居酒屋を見つけたら、友達に紹介するやろ」「自分たちがやっている今の組合活動とか組合がそういうふうに思えるかどうかの問題や」と言います。1300名が残っているのは、「安くておいしい居酒屋や」と思ってるはずなんです。だからそれをどんどん表に出してもらう。これは、11月集会もそうだと思うんですね。

この3労組の集会も14回目です。3労組の共闘や信頼関係はずいぶん深まっています。それぞれの職場で闘っているんですが、業種が同じなら、地域を問わず、業種別共闘会議を組織すればいい。生コン支部は産業別運動を47年間、こだわってやってきて、関西における生コン産業に根を張ってきた自負を持っているんです。全国でそういう共闘組織ができればと考えています。そういうことをアピールできる集会にしたいと考えています。（8月26日、東京都内で開かれた11・4労働者集会第1回実行委での提起より）

国鉄闘争勝利、橋下打倒へ闘う

全国金属機械労働組合港合同

中村吉政 副委員長

今年の3月に大和田事務局長、8月に辻岡執行委員を失うという中で、全国の皆さんからご弔問をいただきましたことに改めてお礼を申し上ます。この困難ななかでも、労働者の人格や人権が破壊されようとしている折に泣いてはいられないというのが、率直なところです。

私も、この労働組合ができてから10年間、社長逃亡、倒産で、自主管理をしながら闘争してきましたが、最初の3年ほどはなかなか笑えるような状況ではありませんでした。しかし、少しずつ自信が湧いてくる。自然と笑みもこぼれる。笑って過ごせるような闘いをすることが、支援してくれる仲間にも大きな勇気を与えるんじゃないか。それが、今この時期なんだろうと思います。

国鉄1047名の闘いには、大和田事務局長が先頭になって取り組んできましたし、国鉄の臨時職員・和田さんの解雇撤回の闘いにも、その前から取り組んできました。国鉄の闘いに勝利しなければ、労働者の未来はありえないと思っておりますので、大和田委員長亡き後、全国の呼びかけ人に私が名を連ねさせていただきました。

明日（9月16日）、橋下打倒の大きな集会が大阪で開催されます。「入れ墨アンケート」は、6名の組合員が拒否して戒告処分を受けました。交流センターの会員も1人おられますし、私どもの地域の連帯会議の事務局長で市職西区役所支部の支部長も戒告を受けました。また、大阪市の斎場労働者が、心付けを業者からもらったということで懲戒免職になりました。事の是非はともかく、労働者への処分は許されることではありません。その裁判闘争を一緒に闘っています。私たちは、橋下市政の組織攻撃を許さず、大阪の地で頑張っていきたいと考えています。

人権侵害や権利侵害に対して心をひとつに闘われんことをお願いし、また11月集会でお会いできることを楽しみにしています。（9月15日、港合同田中機械ホールで開かれた全国労組交流センター拡大全国運営委での連帯あいさつより）

港合同、関生支部を先頭に闘われた橋下打倒デモ（9月16日）

動労千葉・鉄建公団訴訟、解雇撤回・JR復帰の判決を求めるための東京高等裁判所あて署名のお願い

全国の闘う労働組合・労働者のみなさん。

日々のご奮闘に心より敬意を表しますとともに、国鉄1047名解雇撤回の闘いへの長年にわたる多大なご支援にあらためて御礼を申し上げます。

動労千葉の鉄建公団（現・鉄運機構）訴訟で6月29日、東京地裁民事第11部（白石哲裁判長）において、「国鉄分割・民営化に反対する組合員を不当に差別する目的で選定基準が策定され、採用候補者名簿に載せなかったのは不法行為」「名簿不記載基準が策定されなければ、原告らは採用候補者名簿に記載され、その結果、JR東日本に採用されたはず」とする判決が出ました。

6・29判決は、1047名解雇について、不採用基準（名簿不記載基準）そのものが不法行為であり不当労働行為であることを認める画期的判決でした。「一旦全員解雇―選別新規採用」という枠組みによって「JRの法的責任なし」とした国鉄改革法を打ち破る展望を開きました。しかし、「解雇は正当」という断じて許せない反動判決でした。

裁判所をして、このような矛盾した判決を出さざるをえないところまで追い込みました。あらためて、国鉄分割・民営化に決着をつけるために高裁12民事部で解雇撤回・JR復帰の判決をかちとるために奮闘する時だと思います。（中略）

6・29判決は、国鉄分割・民営化反対―解雇撤回・JR復帰の旗を降ろさず闘い抜いてきたことの大きな意義と可能性を示しています。すべてはこれからです。あらためて国鉄1047名解雇撤回闘争に心を寄せ、ともに闘ってきた全国の仲間に、高裁で解雇撤回を明確に求める新しい運動を呼びかけたいと思います。動労千葉は、JRによる鉄道業務の全面外注化阻止の闘いと結合して、1047名解雇撤回まで闘い抜く決意です。つきましては、「不当労働行為の認定」「解雇撤回」「復帰」へ向け、高裁12民事部への取り組みとして団体署名・個人署名を下記の通り取り組むこととしました。各団体・労働組合におかれまして、多数の署名を集めていただきますよう要請します。

動労千葉・鉄建公団訴訟で〈解雇撤回・JR復帰〉の高裁判決を求める署名運動を！

6・29判決は、「（JRの）採用候補者名簿に載せなかったのは不法行為」と初めて認定

1．第1次締め切り　2012年12月末

2．署名の送付先および問い合わせ先

国鉄分割・民営化に反対し、1047名の解雇撤回闘争を支援する全国運動
国鉄千葉動力車労働組合
〒260－0017
千葉市中央区要町2－8 DC会館
電話043（222）7207
FAX043（224）7197

（呼びかけ）

足立　実（東京東部労働組合元委員長）
伊藤　晃（日本近代史研究者）
入江史郎（スタンダード・ヴァキューム石油自主労働組合委員長）
李東碩（広島大学大学院総合科学研究科准教授）
宇都宮理（愛媛県職員労働組合委員長）
大野義文（元安芸労働基準監督署長）
大口昭彦（弁護士）
荻野富士夫（小樽商科大学教授）
鎌倉孝夫（経済学者・埼玉大学名誉教授）
北原鉱治（三里塚芝山連合空港反対同盟事務局長）
鬼頭宏一（島根大学名誉教授）
金　元重（韓国労働運動史研究家）
清井礼司（弁護士）
高　英男（全日本建設運輸連帯労組関西地区生コン支部副委員長）
斉藤貴男（ジャーナリスト）
崎浜秀俊（元沖縄県高教組副委員長）
佐藤幸子（子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク世話人）
椎名千恵子（子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク世話人）
下山房雄（九州大学名誉教授・JR東日本株主会前会長）
白井佳夫（映画評論家）
新藤宗幸（千葉大学名誉教授）
鈴木達夫（弁護士・法政大学弾圧裁判弁護団長）
清野和彦（元福島県教職員組合委員長）
芹澤壽良（高知短期大学名誉教授）
手嶋浩一（元国労九州本部書記長）
高山克己（元国労新潟地方本部副委員長・元新潟県労働組合評議会政治局長）
高山俊吉（弁護士・憲法と人権の日弁連をめざす会代表）
田中　学（東京大学名誉教授）
富崎正人（弁護士）
中江昌夫（元国鉄動力車労組副委員長）
中西五洲（元全日自労委員長）
中村吉政（全国金属機械労働組合港合同副委員長）
西田　節（元総評オルグ・東部一般統一労働組合委員長）
西村正治（弁護士）
根津公子（東京「君が代」不起立被処分者）
葉山岳夫（弁護士・動労千葉顧問弁護団長）
花輪不二男（世田谷地区労働組合協議会顧問）
藤田正人（弁護士）
前嶋　登（富士地区労働組合会議議長・元全日建中央副執行委員長）
三留理男（写真家）
宮城盛光（沖縄県北中城村議・元全軍労牧港支部）
安田浩一（ジャーナリスト）
山村ふさ（元日教組書記次長）
山本弘行（動労千葉を支援する会事務局長）
矢山有作（元衆議院議員）
全金本山労働組合
全日本建設運輸連帯労組関西地区生コン支部
婦人民主クラブ全国協議会

（賛同）

有賀信勇（弁護士）
川村　理（弁護士）
黒田節子
小関傳六（弁護士）
嶋田久夫（弁護士）
清水雅彦（日本体育大学准教授・憲法学）
高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）
内藤　隆（弁護士）
永島靖久（弁護士）
山崎吉男（弁護士）
横田　厚（元国労釧路闘争団員）
東京二十三区清掃一部事務組合労働組合足立支部

（2012年10月3日現在）

反原発・反失業をたたかう国際統一行動を！

フクシマの怒りに応え〝全原発の即時廃炉〟を

野田による原発再稼働に怒り20万人が首相官邸前を埋めた（6月29日）＝撮影＝三留理男

代々木公園に17万人が集まった「さようなら原発集会」（7月16日）＝撮影＝野田雅也（JVJA）

3・11東日本大震災と福島第一原発事故から1年7カ月が経ちました。原発事故はいまだ収束などしておらず、いつまた爆発が起きるかわからない危険な状態が続いています。何層もの下請け労働者が被曝させられながら、必死に収束作業に就いています。原発を動かすのも、止めることができるのも労働者です。今こそ、労働者の力で全原発の廃炉へ闘う時です。

事故から1年を経た頃から急激に反原発の闘いが高揚しています。3・11郡山集会に1万6千人が集まり、毎週金曜日の首相官邸前行動は6・29に最大の20万人が集まり、7・16代々木公園での「さようなら原発集会」には17万人の労働者市民が集まりました。

しかし、野田政権は、大飯原発の再稼働を強行し、新しい原子力規制委員会の委員長に原子力ムラの中心にいる田中俊一を据え、さらなる原発再稼働を進めようとしています。「2030年代に原発ゼロを」なる「新エネルギー戦略」は、破綻している核燃料サイクルを維持し、大間原発の建設再開など、原発の増設も行うというものです。

こうしたなかで、実はないことが明らかになりました。福島県実施の「県民健康管理調査」について専門家が議論する検討委員会をめぐり、県が委員らを事前に集め秘密裏に「準備会」を開いていたというのです（10・3付毎日新聞が暴露）。この検討委の座長は、福島県立医大副学長の山下俊一。山下は、「放射能の影響は、実はニコニコ笑っている人には来ません」などと吹聴している人物です。その検討委は子どもたちの甲状腺検査で甲状腺がん患者が初めて確認されたにもかかわらず、「原発事故とがん発生の因果関係があるとは思われない」という見解を確認したというのです。甲状腺に異変のある子どもたちは3万人にも上ります。山下らは子どもたちの甲状腺疾患が悪化するのを待つ――まるでモルモット扱いです。

「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」代表の佐藤幸子さんは「自分の命は未来にずっとつなぐための命です。だから未来の命を傷つけたり苦しめたりするようなことは、今生きている私たちはしてはいけないことです。そう考えた時に原発は到底受け入れられるものではない」と訴えています。同世話人の椎名千恵子さんはこの7月、アメリカのカリフォルニア州を縦断し、フクシマの声を世界に向けて発信しました。

今こそ、フクシマの怒りに応え、100万人決起を実現し、〝全原発の即時廃炉〟をかちとりましょう。11・4集会をその大きなステップとしましょう。

韓国・民主労総が動労千葉ストに連帯行動

日本大使館前で警官隊と激突

9・27ソウル本部などが怒りの記者会見

韓国で労働組合の最大のナショナルセンターである民主労総のソウル地域本部などが9月27日、動労千葉の外注化反対のストライキを支持する連帯行動と記者会見を行いました。ソウル本部は歴代4委員長が参加。

警察の弾圧をはねのけ、日本大使館前で「動労千葉のストライキ闘争を民主労総ソウル本部が支持し、連帯します」「JR外注化阻止！　非正規職撤廃！強制出向反対！」などと書いた横断幕を出してアピールを行いました。28日からは「1人デモ」を日本大使館前で行いました。

民主労総は8月に13万人余がゼネストに立ち上がり、強力に闘い抜いています。毎年、40～50人が日本の11月集会に参加しています。

●イジェウン・ソウル本部長のメッセージ（要旨）

韓国でも公企業先進化政策で、KTX（韓国高速鉄道）、水道、ガス、仁川空港など民営化、外注化を推進しています。

鉄道民営化に失敗した英国の事例で見られるように、民営化は国民のための政策ではありません。利潤追求と営利を優先視する財閥と資本のための政策です。安全無視、労働者への責任転嫁、雇用不安、低賃金、長時間労働を強要するJR東日本は10月1日外注化施行を中断しなければなりません。

また、日本国民の安全を無視して公共性を放棄して利潤創出に没頭する私有化、商業化、非正規職量産拡大を推し進めている日本政府を強く糾弾します。日本政府は鉄道を民営化する過程で発生した1047名の労働者を即刻原職復職させ、非正規職政策を廃棄して、国民の安全のために原子力発電所再稼動を中断しなければなりません。

世界の労働者が共に資本主義を粉砕し労働解放をかちとるその日まで闘っていきましょう。

労働者は一つだ！　韓日労働者の団結と連帯で外注化阻止闘争に必ず勝利しよう！

沖縄へのオスプレイ配備許すな

9月9日、沖縄・宜野湾海浜公園に10万人を超える人々が集まり「オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会」が開かれました（写真）。この怒りを踏みにじり、米軍と野田政権は10月1日から普天間基地への配備を強行しました。許せません。

ドイツ機関士労組から参加表明

都市鉄道の民営化に反対し闘う

ドイツとの国際連帯は2012年、めざましい発展をとげています。特に8・6広島集会には、ドイツ反核運動の総本山＝ゴアレーベン核廃棄物処分場反対同盟からの参加があり、熱烈な日独共同闘争となりました。

そして今年の11・4集会には、ドイツ機関士労組（GDL）に所属する仲間が参加を表明しています。GDLは、ドイツ鉄道（DBB＝連邦政府の持ち株会社数社の連合体）の鉄道運転士および車掌の7割以上を組織し、組合員数は3万4000人。同労組は、新自由主義による実質賃金の低下、労働者の分断攻撃などに真っ向から対決し、2007～08年、ドイツ全土を揺るがす数波の大ストライキ闘争を闘い、「ストライキ共和国＝ドイツ」を実現する原動力となりました。

GDLによるライプツィヒでのストライキ（2011年春）

今、ベルリンでは、「都市鉄道」（ベルリンと周辺都市間を結ぶ鉄道網）を民営化する計画が推し進められていますが、これに反対する鉄道労働者が、GDLをはじめ組合を越えて行動委員会をつくって闘っています。この行動委員会で闘う労働者がやって来ます。昨年8月以来、彼らと動労千葉との交流・連帯が開始され、今年のメーデーでは連帯声明の交換にまで発展し、さらにこのたびの参加表明となったのです。

労働者国際連帯集会

11月3日（土）午後1時30分開会
千葉商工会議所第1ホール
千葉市中央区中央2－5－1
千葉中央ツインビル2号館14階

☆韓国から　民主労総ソウル本部　☆アメリカから
☆ドイツから　☆日本で闘う外国人労働者から
☆福島から　☆外注化と闘うJR労働者から